



「校風三則」

- 一、 以徳報徳の道風を慕ふ
- 一、 至誠勤勞の涼風を尚ふ
- 一、 分度推譲の美風を養ふ

「以徳報徳の道風を慕ふ」

『以徳報徳』とは、「徳」を以って「徳」に報いる。受けた善意に対しては当然、その善意で応じるものであるという教えです。

もしこれが「以恨報恨」であれば、恨みを以って恨みに報いる 受けた恨みに対しては当然、その恨みで応じる。即、戦争勃発に繋がります。

「至誠勤勞の涼風を尚ふ」

『至誠』とは、全てのものに良い結果を与える理念として、「真心をもって事に当たる」こと。

『勤勞』とは、大きな目標に向かって行動を起こすにしても、小さなことから怠らず、慎ましく勤めなければならない、言い換えれば「積小為大」のことです。

至誠勤勞とは、物事に対して労を惜しまないで、まじめに勤め、励みそして誠実であることを尊徳は教えています。

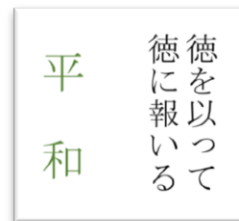
「分度推譲の美風を養ふ」

『分度』とは、それぞれの生活の分、すなわち生活レベルを定め、その範囲内において日々の暮らしを立てることです。

自分の器を考えて、大き過ぎもせず、小さ過ぎもせず適切な規模でバランスを持って事業に取り組みなさいという教えです。 とかく自分を大きく見せて背伸びしたり、過小評価をして不十分な活動しかしないことを戒めています。

『推譲』とは、分度をわきまえて儲けたお金の半分は分け与えて、自分で独り占めしてはいけないということです。 半分、分け与えるところがみそです。

分度推譲とは分度をわきまえ、少しでも他者に譲れば、周囲も自分も豊かになるという教え、「たらいの水」です。



二宮尊徳の考え方や近江商人の商いの仕法、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の三方よしがロータリーの職業奉仕に通じるということよく取り上げられてきましたが近年、RIの職業奉仕と日本の職業奉仕に温度差があると言われていました。

それはその人の考え方であり、正解も不正解もないのではないのでしょうか。我々は大いにロータリーを楽しみたいと思います。